

2. 主な中東諸国の宇宙開発動向(概観)

中東でも、東南アジアと同様、通信衛星の運用や他国の気象・地球観測衛星のデータの受信・利用に加え、独自の地球観測衛星を開発した、もしくは開発を進めている国が近年増加。

- 衛星の調達に加え、自前の衛星を開発(計画含む):
⇒ アラブ首長国連邦、イスラエル、イラン、サウジアラビア、トルコ
- 衛星打上げロケットを保有 ⇒ イスラエル、イラン
- その他 ⇒ 第1回ISEFにアラブ首長国連邦及びサウジアラビアが参加

イスラエル

：イスラエル宇宙庁(ISA)、1983年設立。

宇宙予算：推定8,000万ドル(約80億円)

- ◆1988年、自国のシャビット(Shavit)ロケットによる技術実証衛星「オフエク(Ofeq-1)」の打上げに成功。
- ◆地球観測では他に「エロス(EROS)」衛星、通信放送・測位では、静止通信衛星「アモス(AMOS)」シリーズを運用。
- ◆欧米、印露等との国際協力を積極的に展開。小型衛星や観測センサで高度な技術を持ち、海外の衛星プロジェクトに機器などを多く提供。

サウジアラビア：

宇宙予算：不明

- ◆キングアブドゥルアジズ科学技術都市(KACST)内の宇宙研究所が、研究開発プログラムの計画と実施を担当。その下で、サウジ・リモートセンシングセンターが諸外国の衛星データを受信。
- ◆これまでにSaudiSat 2及びSaudiSat 3の2機の地球観測技術実証衛星を打上げ。
- ◆通信放送では技術実証衛星「SaudiSat 1」シリーズと小型通信衛星「SaudiComsat」を運用。また、アラブ衛星通信機構(ARABSAT)への最大出資国。
- ◆2009年12月にNASAと月・小惑星研究協力を合意。

トルコ：

宇宙予算：6,600万ユーロ(97億円)

- ◆トルコ科学技術研究評議会(TUBITAK)の下、宇宙技術研究機関(TUBITAK UZAY)等が主導。トルコ宇宙機関の創設を検討。
- ◆英SSTL社と小型地球観測衛星「ビルサット-1(BilSat-1)」を製造。その後、2011年8月、初の国産小型地球観測衛星「RASAT」を開発し、打上げ。
- ◆2010年12月、文部科学省とトルコ運輸通信省が宇宙・航空分野に係る協力文書に署名。
- ◆2011年3月、静止通信衛星Turksatで欧州・中東・中央アジアに通信・放送サービスを提供するタークサット(Turksat)社がTurksat-4A及び4Bを三菱電機に発注。
- ◆APSCO加盟国。

イラン

：イラン宇宙庁(ISA)、2003年設立。

宇宙予算：不明

- ◆2005年、農業、天然資源、自然災害を監視する目的の小型実証衛星「シナ(Sinah/Sina)」を打ち上げ。
- ◆弾道ミサイルから派生したと見られる準軌道ロケット「カブシュ(Kavoshgar)」と衛星打上げ機「サフィル(Safir)」を保有
- ◆2004年11月、CNSAとの間で航空宇宙・科学分野での協力に関するMOUを締結。(APSCO加盟国)
- ◆露国との間でも2013年2月、宇宙分野での協力の強化を目的としたMOUを締結。

アラブ首長国連邦：

宇宙予算：不明

- ◆宇宙機関は存在せず、2006年に設立された先端科学技術研究所(EIAST)が宇宙プログラムを主導。
- ◆2009年7月、地球観測衛星DubaiSat-1を打上げ。設計、製造は韓Satrec Initiative社。2017年に初の国産衛星KhalifaSatの打上げを目指して開発を推進中。
- ◆通信放送分野でも、複数の民間会社が衛星を保有し運用。
- ◆中東及びアフリカ北部のアラブ諸国で構成するアラブ宇宙研究機関の設立を呼びかけている。

